

令和元年度



学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ~学ぶ喜びにあふれた学校をめざして~

平成31年4月25日
横浜市立高田小学校

5月号

「メダカの学校」

校長 金子 一雄

平成最後の年度が始まり3週間が過ぎようとしています。校庭の花たちは、暖かさが増すにつれ、美しく咲き誇り、その間をモンシロ蝶が飛び交う光景に心が和みます。また、毎朝、うぐいすが鳴く声も聞かれ、学校の様々なところで「春」を感じるこの頃です。

高田小のこどもたちも、元気いっぱい新しい学級、学年で学習や諸活動に取り組んでいます。朝、登校時には、大きな声で「おはようございます」と挨拶をしてくれる子が昨年より増えたように感じ、うれしく思います。

先日、保健室によりますと、校庭にある「メダカの学校」の池に落ちて、服を濡らした1年生が、体操着に着替えていました。わたしが「どうして落ちてしまったの」と聞くと、それには、答えず「校長先生、オタマジャクシがたくさんいるよ。」とたいへん興奮した様子で返事をしました。どうもオタマジャクシを観察していて池に落ちてしまったようです。さらに「オタマジャクシはだれが池に入れたの」と聞くので、「だれもいれていないよ。冬眠からさめたカエルが池に卵をうんで、それが孵ったんだよ。カエルは池の近くの土のなかで冬眠していたんだよ。」という、「そうなんだ」不思議そうにして初めて知って驚いたというように答えていました。生き物が好きな子のように、着替えて教室に戻る際も、職員玄関の水槽を見て「ここには、何がいるの」と聞くので「めだかだよ」というと「あとで見に来るね。」といて帰っていきました。

今回は本校の「メダカの学校」に生息する素敵な生きものを紹介したいと思います。「メダカの学校」は、バイオトープとよばれるもので、高田小学校付近の生物が自然に近い形で観察できる場として作られたものです。ここでは、年間を通じて、様々な生物が見られます。春にはオタマジャクシ。昨年度は、ヒキガエルが大量に卵を産んで、今年より3倍くらいのオタマジャクシがいました。子どもたちは、中休みや昼休みオタマジャクシを見つけると手ですくって観察しています。中には、教室で飼育しカエルになるまで飼った子もいました。

そして、5月に入ると、ヤゴがトンボとなって飛び立っていく様子が見られます。冬の間、池の中の小さな虫やメダカを食べて育ったヤゴで、シオカラトンボやアカトンボの類が多く生息しているようです。中にはイトトンボの仲間もいて、その胴体は、緑色と青色の中間の色、いわゆる瑠璃色をしており、感動するくらいすばらしくきれいな色をしています。糸のように細い胴を持った瑠璃色のこのトンボが、「メダカの学校」付近を飛ぶ姿を子どもたちにぜひ観察して欲しいと思っています。初夏には、キアゲハ、カラスアゲハ、アゲハなどの蝶類が増えてきます。アゲハの類もその姿は豪華で飛ぶ姿は、見ていてあきまませんが、最もきれいなのは、白色のシジミチョウです。よくみると羽の色が薄い青色で輝いているように発色して見えそれが何とも言えない美しさです。小さい蝶ですが、ぜひ観察してもらいたい生物です。校内のほんの小さなスペースですが、「メダカの学校」には、たくさんの発見があります。

保健室で出会った1年生をはじめ、高田小の多くの子どもたちが、「メダカの学校」でたくさんの生物に出会い、興味や関心をもってもらえたらよいなと思っています。

皆さんも本校を来校なさった折に、是非一度のぞいてみていただければと思います。